

CHIBA 赤十字 NOW

2023
Vol. 64



【特集】赤十字の国際活動

負傷者を搬送するパレスチナ赤新月社のスタッフ ©PRCS

発行所/日本赤十字社千葉県支部 〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7
TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812
<https://www.chiba.jrc.or.jp/>

 **日本赤十字社** 千葉県支部
Japanese Red Cross Society

赤十字活動へのご寄付はこちらから→



特集

ウクライナやイスラエル・ガザだけじゃない!

赤十字の国際活動

日本赤十字社の主な支援国と支援内容

アジア・大洋州

- アフガニスタン人道危機救援
- アフガニスタン気候変動対策事業
- ラオス救急法普及支援事業
- ネパールコミュニティ防災強化事業
- 2022年パキスタン洪水救援
- バングラデシュ南部避難民支援
- トンガ大洋州噴火津波救援
- インドネシア防災強化事業

アフリカ

- ルワンダ気候変動等に対するレジリエンス強化事業
- 南部アフリカ地域 保健・教育支援事業
- 東アフリカ地域 コミュニティ参画強化事業
- 南スーダン紛争犠牲者支援事業

中東・北アフリカ

- 中東人道危機救援
- 2023年トルコ・シリア地震救援

ヨーロッパ

- ウクライナ人道危機支援



南スーダン紛争犠牲者支援事業

続く武力衝突で傷ついた人々を助け、自立した生活を支える



ワウのリハビリテーションセンターを訪れた負傷者 ©ICRC

2011年の独立以降も紛争が続く南スーダン。2022年は約230万人が周辺国に難民として流出し、約220万人が国内避難民となっています(出展:OCHA)。

赤十字国際委員会(以下、ICRC)は、南スーダン赤十字社と連携し、食料の配付や生活の自立支援、負傷者の医療支援、避難民の保護活動、こころのケア、離散家族の再会支援・追跡調査支援等を実施しています。日赤では、1990年、独立以前のスーダンの時代から、ICRCの活動への資金協力及び医師・看護師の派遣を通じて同国での医療活動に貢献してきました。また、紛争によって障害を負った人々がリハビリを通して自立した生活が送れるように、リハビリテーションセンターを運営し、義肢製作などの技術的なサポートを行っており、2022年には紛争で四肢に損傷をきたした3,200人に対しサービスを提供しました。

ラオス救急法普及支援事業

ひとりでも多くのいのちを救える社会を目指して



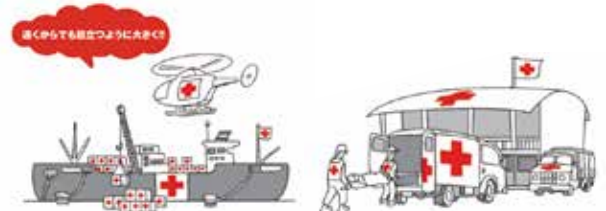
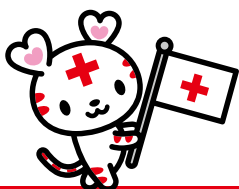
ラオス赤職員に技術指導する千葉県支部職員

ラオスは、インフラの整備が不十分であることから、特に地方部で雨季には洪水や地滑り等の自然災害が頻発しており、都市部では、経済発展に伴い道路交通量が増える一方で交通事故が多発しています。災害や交通事故のリスクが高いにもかかわらず、医療体制が十分でない背景から、ラオスでは地域住民が自分たちで応急手当を実施できるようにすることが非常に重要です。

日赤では、2019年から、ラオス国内で救急法を普及するための指導員の養成や資機材の整備など、ラオス赤十字社が行う救急法普及事業を支援しています。2023年2月には千葉県支部から職員を派遣し、技術支援を行いました。

知っていますか?赤十字マークの意味

赤十字マーク(赤十字標章)は、戦争や紛争時に、負傷者を救護する人や施設等を保護するために表示するもので、ジュネーブ条約において、このマークを掲げた救護員や病院等には、絶対に攻撃をしてはならないと定められています。



報道で多く取り上げられている、ウクライナやイスラエル・ガザ以外でも、紛争や自然災害は世界各地で発生し、人々のいのちや健康を脅かしています。

赤十字は、世界中で苦しんでいる紛争犠牲者や被災者に対し、世界191の国と地域に広がるネットワークを活かして、緊急救援から復興支援、そして開発協力まで、皆様からお寄せいただいたご寄付によって切れ目のない継続的な支援活動を行っています。

今回は、千葉県支部が資金援助・人的支援を行っている4カ国の支援内容にスポットをあててご紹介します。



日本赤十字社の支援国

94カ国

(2022年度)

バヌアツ青少年赤十字海外支援事業

子どもたちの防災意識を高める



小中学生を対象にした防災教育
©バヌアツ赤十字社

バヌアツは、オーストラリアの北東に位置し、83の島からなる島国です。ほかの太平洋の島々とは比べ火山噴火、サイクロン、津波など多くの災害を経験するなど災害リスクの高い国ですが、防災知識の普及や学校での災害対策が進んでいないために、被害の拡大を招いています。

バヌアツ赤十字社は防災教育事業を進めており、日赤は2017年度から本事業を支援しています。バヌアツの教育訓練省と協定を結び、学校カリキュラムの中に防災教育プログラムを組み込むなど、災害リスク軽減と防災の正しい知識を教える環境づくりに取り組んでいます。

インドネシア防災強化事業

災害時に誰も取り残されない仕組みづくりを



水難救助訓練に励む地域ボランティアや行政の参加者
©インドネシア赤十字社

アジア有数の災害多発国であるインドネシアでは、特に地方部での公共インフラ整備が著しく遅れています。

日赤は、2020年から、インドネシア赤十字社とともに同国ジャワ島南部の巨大地震の発生リスクの高い村落と学校を拠点に防災強化事業に取り組んでいます。全村で土砂崩れや津波のリスクが高い場所、避難経路、集合場所などを示す標識を設置したり、災害時の早期警報システムの訓練や、洪水に備えた水難救助訓練などを実施しています。学校では、災害時に危険な場所を生徒自らが理解するためのハザードマップづくりや、生徒が適切に避難できるよう、防災教育の指導要領も策定しています。

NHK 海外たすけあい

今、危機に瀕している1億人の命をつなぐために

キャンペーン期間：12月1日(金)～12月25日(月)

日本赤十字社では、世界各地の紛争や自然災害などに苦しむ人々を支援するため、本年度もNHKと共催による「NHK海外たすけあい」キャンペーンを実施します。

この活動では、「必要な人に、必要な支援を」という理念を掲げ、対象を絞らずに幅広く行き届く支援を行っています。たとえ社会の関心が薄れてしまった人道危機であっても、誰一人取り残さないために、皆様のご協力をよろしくお願いします。

詳しくはこちら



知っていますか？戦争にもルールがあることを

国際人道法では、一般市民への無差別な攻撃はもちろん、危険なエネルギーを内蔵するもの(原発、ダム、堤防等)、一般住民の生存に不可欠なもの(食糧生産のための農業地域、作物等)、文化財や歴史的遺産の破壊は禁じられています。

動画で見る国際人道法
「戦時の決まりごと」



食べ物が喉に詰まったら

食べ物を喉に詰まらせる事故は、高齢者や小さな子どもに多く発生します。特にお正月はお餅を食べる機会が増えるため、更に注意が必要です。

事故を未然に防ぐことが最も重要ですが、もし身近にそのような状況が起こったら、周りの人たちが対応できるようにしておくことが大切です。

気道に異物を詰ませたときの症状

- 突然、もがき苦しみ、声が出せない。
- 話しかけても返答ができない。
- 異常音(狭くなった気道を空気が通ろうとするために生じる。)
- 胸に激しい呼吸運動が見られるにも関わらず、空気の出入りが少ないか止まっている。
- 顔、首、手などにチアノーゼ※が出てくる。 ※チアノーゼ…顔色、手足の色、特に唇、爪の色が青黒くなった状態。



窒息のサイン

対処方法

- ① 咳をすることが可能であれば強い咳をさせる。
- ② 声が出ない、十分に強い咳ができない場合は119番通報をしたうえで以下の方法を試みる。

✓ 背中をたたく

立っているか座っている場合(成人)

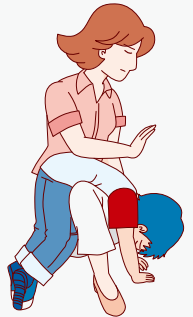
傷病者の頭をできるだけ低くし、胸を一方の手で支え、他方の手で左右肩甲骨の間を続けてたたきます。



幼児の場合

素早く抱きかかえるか又は大腿部で支え、頭を低くして平手(手掌基部)で背中をたたきます。

※基本的には幼児・乳児ともに成人の場合と同じ要領で行いますが、力を加減して行うことが大切です。



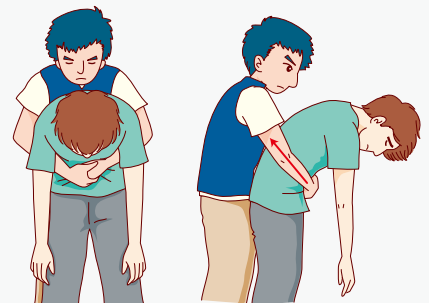
寝ている場合

傷病者を横向きにし、胸と上腹部を救助者の大腿部で支え、左右肩甲骨の間を続けて叩きます。

✓ 上腹部を突き上げる

立っているか座っている場合(成人)

傷病者を後ろから抱くような形で、上腹部(へそのすぐ上、みぞおちより下方の位置)に握りこぶしを当て、もう一方の手でその握りこぶしを上から握り、瞬間的に手前上方に突き上げます。



※上腹部を突き上げる方法は、妊婦や高度な肥満者、乳児には行わないでください。

※詳細については動画でご紹介しております。二次元バーコードを読み取り、気道異物除去を選択し、ご覧ください。

喉に物が詰まると、苦しくて声が出せないこともあるので、周りの人がすぐに気づいて正しい対応をしてあげることが大切です。赤十字の講習を受講して、正しい対処法を身に着けましょう。

事故は、物を口に入れやすい幼児にも起こりやすいため、身の回りの物の置き場所への注意や、食事の際は見守るなど、予防にも努めていただき、安心安全に年末年始をお過ごしください。

講習会の参加は
こちらから



75th ANNIVERSARY

千葉県赤十字奉仕団創設75周年記念大会
～ ころを笑顔に 赤十字の輪 ～

千葉県赤十字奉仕団が 創設75周年を迎えました



赤十字の活動は、「苦しんでいる人を救いたい」という人道的使命に賛同する多くのボランティア(奉仕団)によって支えられています。

今回は、今年で創設から75周年を迎えた「千葉県赤十字奉仕団」についてご紹介します。

75周年記念大会を開催しました

11月7日(火)に千葉市民会館で「千葉県赤十字奉仕団創設75周年記念大会」が開催され、県内の奉仕団員約800名が一堂に会しました。

第一部の式典では、熊谷俊人支部長による式辞のほか、奉仕団活動にご貢献いただいた個人2,856名、団体79団体の代表者にむけて清家篤社長と熊谷俊人支部長が表彰を行いました。



▲ 笑顔で表彰を行う清家篤社長



▲ 社長感謝状を受け取る八千代市赤十字奉仕団
江野澤眞利子委員長

記念講演を開催

第二部では、「日本赤十字の父 佐野常民とその時代」と題し、「佐賀市立 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」の館長 諸田謙次郎氏による記念講演が行われました。

佐野常民の生きた時代を振り返るとともに、その生涯が、今日の赤十字活動すべてに活かされているということが参会者に伝わる素晴らしい講演でした。



▲ 時折笑いを交えながら熱く語る
諸田謙次郎氏

赤十字奉仕団誕生物語

赤十字のボランティアは、古くは明治20年(1887年)に設立された「日本赤十字社篤志看護婦人会」がその始まりです。皇族、華族などを中心に構成された篤志看護婦人会では、病院慰問や包帯製作などの活動が行われ、赤十字では「ボランティア」という言葉がない時代からボランティア活動(奉仕活動)が行われていました。

75年の歴史

現在の赤十字奉仕団は、第二次世界大戦後、アメリカ赤十字社から派遣された顧問団の援助により創設されたものが原型となっています。

千葉県では、昭和23年に木更津市、市川市、東金市に赤十字奉仕団が創設され、その後、県内各地で相次いで設立されました。

現在は、地域奉仕団を含め、9つの奉仕団が結成され、活動しています。

県内初の奉仕団の結成から75年、赤十字奉仕団はすべての人々の幸せを願い、陰の力となって、時代のニーズに合った人道的活動に取り組んでいます。



▲ 裁縫奉仕を行う地域赤十字奉仕団

赤十字キッズクロスを開催



8月6日(日)イオンモール幕張新都心にて、いのちを守る赤十字の学習イベント「赤十字KIDS CROSS(キッズクロス)」を開催しました。

血液のはたらきや献血の必要性を映像で紹介したり、成田赤十字病院で実際に働いている看護師の一日に密着した動画を通して、看護師の仕事内容や想いについて紹介しました。また、もしもの時に役立つハンカチを使った応急手当の方法やはがれにくい絆創膏の貼り方を体験してもらいました。

参加者からは「情報が盛りだくさんで、ためになった」との声がありました。

青少年赤十字メンバーがベトナムと国際交流



8月21日(月)、ベトナムと日本の青少年赤十字メンバーがオンラインで国際交流を行いました。参加した中高生メンバー10名は、英語を使って日本の文化や自分たちの赤十字活動の紹介ができるよう夏休みから語学奉仕団のサポートを受け、準備を重ねてきました。

当日は一人ひとりが練習の成果を大いに発揮し、お互いの文化や活動への理解を深めることができました。

参加したメンバーからは「ベトナムの人の温かさを感じることができ、これからもっと英語の勉強をして伝えたいことをすぐ英語にできるようにになりたい」と感想があげられました。

九都県市合同防災訓練に参加



8月27日(日)と9月2日(土)に、九都県市合同防災訓練に参加しました。

この訓練は、九つの自治体が各地域で毎年開催している防災訓練で、千葉県内では千葉市会場と千葉県会場の2か所で開催されます。

当支部は、災害発生時の情報を受けて救護班を派遣し、成田赤十字病院の医師や看護師による傷病者への救護活動や、千葉県赤十字血液センターの車両による血液搬送訓練を実施しました。また、消防隊や自衛隊が救助した傷病者の受入れや、病院搬送までの引継ぎを行うなど、他機関との連携も強化しました。

いざという時に備え、一人一人が防災に関する意識を高め、協力して安全を守る環境づくりに取り組んでいきます。

救急法フェスタを開催しました



10月5日(木)、赤十字救急法フェスタ2023が開催されました。

千葉県武道館を会場に、各赤十字奉仕団と支部職員選抜チームを合わせて60チームが参加して行われた「いのちをつなぐ救急法コンテスト」では、前腕の骨折の手当てに各チームが取り組み、赤十字らしく丁寧に優しい手当てを心掛け、練習を重ねた技術を披露しました。

参加者からは「誰かを助けたいという同じ思いを持った仲間がたくさんいることを実感し、心強かった」「千葉県内で救急法が広まる良い機会となった」との声があげられました。

活動資金 協力企業

(団体)の
ご紹介

日本赤十字社の活動は、皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています。赤十字のサポーターとして、活動を支えていただく「大きな力」となっています。ご協力、誠にありがとうございました。

※令和5年度第1四半期に千葉県支部へ直接10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了解いただいた法人(団体)のお名前をご紹介します。なお、千葉県支部ホームページにおいてもご紹介しています。(敬称略・五十音順)

株式会社 群森工務店(山武郡横芝光町)
株式会社 石井興業(山武郡芝山町)
エム・ティー・エム興産株式会社(市川市)
かすみメンテナンス株式会社(松戸市)
勝又自動車 株式会社(千葉市中央区)
鎌ヶ谷巧業 株式会社(鎌ヶ谷市)
京相製管 株式会社(山武市)
近代住機 株式会社(松戸市)
株式会社 倉持鉄工(野田市)
株式会社 サウンドハウス(成田市)
株式会社 坂戸工作所(千葉市花見川区)
株式会社 サンアドバンス(柏市)
株式会社 三浩総産(船橋市)

株式会社 サンタクロース(市原市)
シーエスジャパン株式会社(市原市)
株式会社 シーエヌティー(市原市)
株式会社 ジェス(成田市)
スマイルハート 株式会社(八千代市)
有限会社 創和設備設計(千葉市中央区)
株式会社 ダンゴ&ディーネンターナルジャパン(四街道市)
公益社団法人 千葉県看護協会(千葉市美浜区)
一般社団法人 千葉県歯科医師会(千葉市美浜区)
株式会社 千葉興業銀行(千葉市美浜区)
千葉トヨペット株式会社(千葉市美浜区)
株式会社 鶴商メンテナンス工業(市原市)
株式会社 東総理工(銚子市)

有限会社 東洋軌道(千葉市美浜区)
トヨタカローラ千葉株式会社(千葉市美浜区)
日幸建設株式会社(千葉市中央区)
FEEL GREAT 株式会社(印西市)
株式会社 福岡(千葉市中央区)
みはらデンタルクリニック(佐倉市)
医療法人社団 誠悠会 もりや内科・呼吸器科クリニック(白井市)
米屋産業株式会社(成田市)
株式会社 リンクス・ビルド(船橋市)
ロビンスジャパン株式会社(八千代市)
医療法人社団 明恵会 若宮中央医院皮膚科クリニック(市原市)